

# 雌阿寒岳

## 1 概況(平成14年11月)

観測データに大きな変化はなく静穏に経過しました。2000年以降ポンマチネシリ96-1火口の熱的活動は低下する傾向が認められますが、時折地震活動が活発化することがあります。

## 2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ96-1火口の噴煙高度は概ね火口上100~200m程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

## 3 地震活動の状況

顕著な地震増加や火山性微動はありませんでした。地震回数は1日あたり0~3回と平常レベルで推移しました。震源はほとんどが従来と変わらずポンマチネシリ火口の浅いところと推定されます。

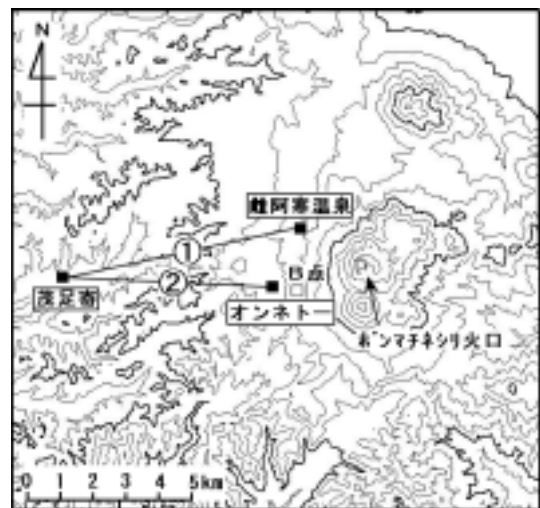
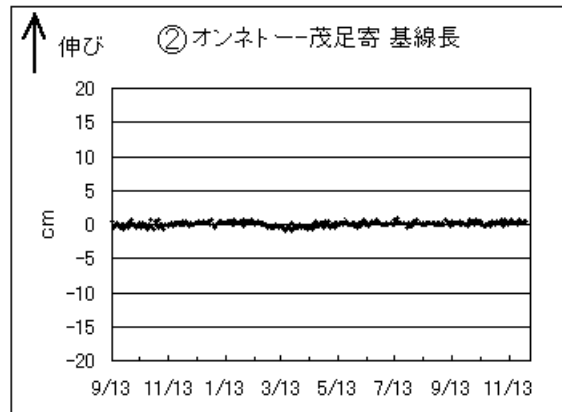
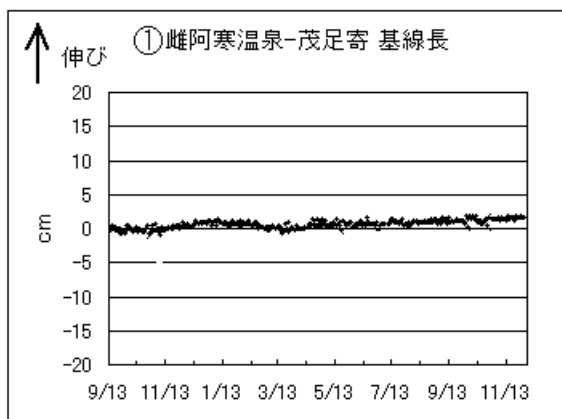
なお、徹別岳周辺(雌阿寒岳の南約5km)で、10月8日から地震活動が活発化しており、11月に入っても時々起きていますが、雌阿寒岳の火山活動には直接影響しないと考えています。

月別地震・微動回数(B点)

平成13~14年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
地震回数	18	21	39	204	17	11	20	32	25	34	21	20
微動回数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

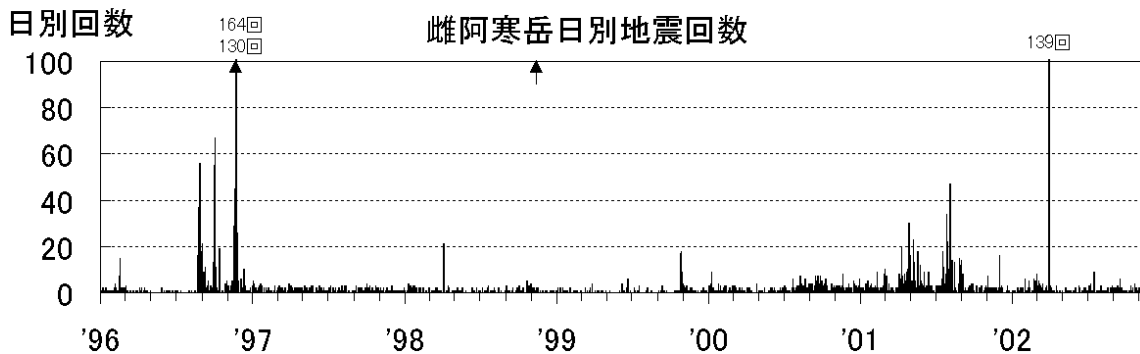
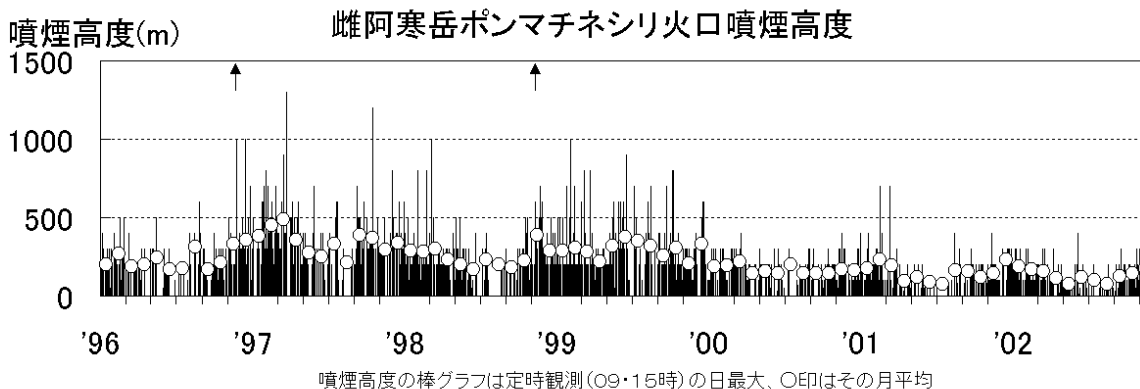
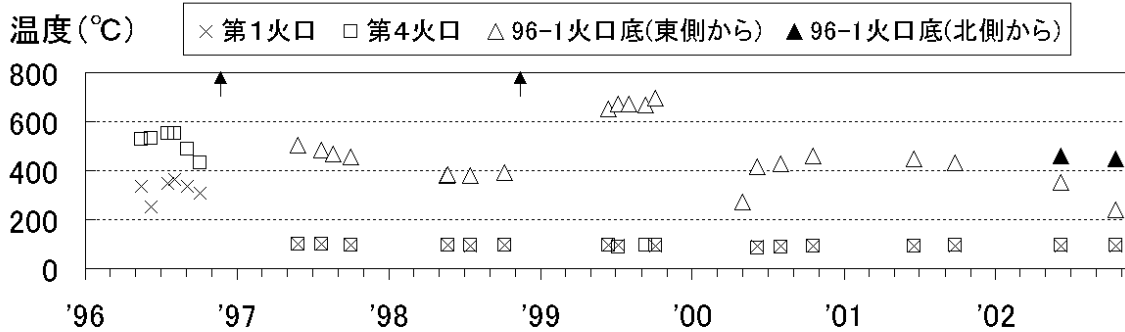
## 4 地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動に起因すると考えられる変化はありませんでした。



雌阿寒岳基線長変化(2001年9月13日~2002年11月30日)

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳火山活動経過図(1996年1月1日~2002年11月30日) 印は噴火